

平成14年度金沢大学地域貢献推進事業

能登タウン・ミーティング

総合テーマ	「地域が大学に望むもの」
日 時	平成15年1月24日（金）18：30～20：50
場 所	輪島駅ふらっと訪夢（ほうむ）
総合司会	太田 義興（金沢大学企画広報室長）

挨拶

中村 信一（金沢大学副学長、金沢大学地域貢献推進室長）

今後の大学のあり方と地域貢献

今日は大変寒い中、たくさんの方にご参加いただき、御礼申し上げます。さて、従来より、教育と研究が大学の使命だといわれてきましたが、最近は第三の使命として社会貢献が非常に大きくなってきております。社会貢献といいましても、例えば産業を興すための技術や知識を提供するほかに地域貢献をすることが非常に大事になっています。特に、大学は2年後に法人という組織に変わりますが、そのときに大切なのは、地方大学である金沢大学が、地元にどれほど貢献しているかということです。地元の支援なくして大学は存在しませんので、その点で、今までの大学が地域とあまりにも離れていたことは反省しなければなりません。

地域に根ざした大学を考える場合に、大事なことは、地域からのご意見を大学の運営に生かし、そして地域も大学も栄えるという一体感を持つことだと思っています。それを踏まえ、平成14年度に文部科学省が地域貢献特別支援事業を設け、全国に公募しました。全国にある99の国立大学のうち75大学が応募し、書類審査・ヒアリング等を経て選ばれた15大学に金沢大学は入っております。特に、地域貢献で全国のモデル校になってほしいと文部科学省から大変期待されているところです。

このような事業は、県はもちろん金沢市、輪島市、加賀市をはじめ石川県すべての地域からのご協力があってできることです。本日は能登タウン・ミーティングということで、この地域からの金沢大学に対する厳しいご意見、あるいはご要望等を承れれば非常にありがたいと思っています。



(中前) 金沢大学を大いに利用するといつても、能登地域から金沢まで行くのは交通が不便です。例えば金沢大学サテライトプラザが金沢にはありますが、それを能登地域にもつくるなど、受講できる環境をつくっていただければと思います。



(太田) 金沢大学は生涯学習の一環として、ミニ講演をサテライトプラザと角間の大学教育開放センターで主に実施しています。さらに、今年度からテレビ会議システムを利用し、各市町村でも実施することになりました。初回は1月に高松町、2月には寺井町との間で実施します。来年度からはさらに回線を増やし、石川県とも協議しながら、なるべくたくさんの方にお聞きいただけるようにしていくつもりです。

(山本) 今の会議システム等を利用して、金大の学生さんも交えて輪島市の市民会議が行えるような協力体制ができれば、私たちの視野も広がるのではないかと思います。

(石崎) 過疎、人口減少、高齢化に歯止めをかけることも大切ですが、むしろ私たちはそんな能登の現状の中においていかに楽しい能登をつくっていけるかということを考えています。そこで出てくる言葉が、人づくりです。地域づくりは人づくりとよくいわれますが、それをこの能登でどのようにしてやっていけばいいのか、そのところを金沢大学との結びつきの中で、勉強しながら取り組んでいきたいと思います。

(中浜) 人口減少はそう簡単には止まらないということで、滞在型の観光客を呼ぶことが活性化の一一番早道ではないかと思います。そこで、わいち商店街では祭りのときに美術大学の学生を呼んでキリコを担いでもらっています。金沢大学からも参加していただければ、早く輪島をわかってもらえ、宣伝になるのではないかと思います。

(中村) 白峰の雪祭りには、数年前から金沢大学の学生がボランティアで参加しています。これは、労働力の供与のみならず、そこから文化的なものをくみ出せるかということが大事だと思います。学生がキリコを担げるかどうかはわかりませんが、そういう動きはあります。

それから、医療の問題は、同じことをしていても、手術の件数が多いと報酬が高かったり、件数が少ないと安かったりと、非常に難しい問題もあります。

最近は、遠隔治療の技術も進んできましたが、特に緊急な場合への対応については、医療の問題だけでなく道路事情やヘリコプター等のシステムが大事になると思います。

今、世界的に人口が都市集中化していることを考えると、大学の一つの使命として人間の価値観を変えるという役割もあるのではないかと考えます。例えば能登の文化は非常にすばらしいものですし、大学はよりいっそう地域と密着して文化、伝統をきちんと理解し、人間の価値

觀を変えていく方向にいくべきだと思っています。

地元の産業についても、地域に根ざした大学として、地域の産業から新しく研究したものを世界に発信していくこともできます。例えばカイコは、絹を作るだけでなくその能力を利用していろいろな薬剤を作る技術が考えられます。また、漆器の漆が最先端のナノ技術と結びつかないか、あるいは舳倉島の深層水などについても、金沢大学が何かしら寄与できることがあるかもしれません。



(栗原) 漆器産業で職を失った1100人の方が、今どういう仕事についておられるか追跡調査をすると、蒔絵や沈金などの技能を持ちながら土建業で働いている人が多いのです。もし100億円の漆器の新たな需要が生まれれば、この人たちは明日からでも働くことができます。石川県には伝統産業がかなりあり、おしなべて同じ状況だろうと思いますので、国の経済政策にまで影響を与えるような金沢大学理論とでもいうべき新しい手法を作っていただくことを期待します。そのためには、石川県内の伝統産業の現状をもう一度洗い直していただき、その中からうまく新たな産業ができるいけばと願っています。

(本田) 佐渡島でトキの数が増えてきて、住民たちが田んぼを利用して佐渡島の空にトキを再び飛ばそうと一生懸命活動しています。能登でも輪島の洲衛にトキがあり、それを捕まえて佐渡島へ送ったのです。しかし、能登の中山間は田んぼも山も荒れています。そこを大学の先生方や地元行政、民間ボランティアの力を借りて、ぜひ能登の空にもトキを戻してほしいと私は思っています。

(中村) 大変いいお話だと思いますが、覚悟しなくてはいけないのは、トキを戻すためにはかなり広範囲で取り組まなければいけないことです。しかも短期でなく長期にわたってよくしていき、さらにそれを持続しなければいけません。しかし、トキを復活させるという非常に難しいけれども夢のある問題にチャレンジすることはいいことだと思いますので、ぜひどこから何をやればいいかということを考えたいと思います。

私は角間で里山自然学校をやっていますが、角間の里山を動かすことはできなくても、我々が能登へ来たり、能登の方が角間へ来られたりすることは可能です。そのような交流をしながら、角間と能登の山は違いますし、人も自然もそれぞれの違いますから、その違いを大事にし、それを理解し合って取り組んでいかなければと思います。

コメント

西井 知紀 氏（石川県高等教育振興室長）

地域と大学の連携で学術・文化の中核県石川を育てる

金沢大学でこのようなフォーラムを能登地域、加賀地区、金沢で実施されると伺い、どれだけ反響があるものかと内心半信半疑でした。ところが、非常に多数の参加を得て、さらにさ

ぎまな地域の振興に資する観点から金沢大学のあり方についてのご提言をちょうだいし、非常に実りある会合だったと思っています。

この地域貢献事業は、今年度から金沢大学ほか全国の国立大学で始まった取り組みであり、これからの大のあり方として地域と密接に結びつきが見直されているということです。石川県には、能登地域をはじめとする豊かな自然環境、漆器産業をはじめとする伝統工芸、文化の厚みもあり、さらに金沢大学等の高等教育機関の集積もあります。県としても、高等教育振興室を設置し、これらをいかに生かしていくかということに強い関心を持っております。

特に金沢大学においては、地域貢献室という体制がしっかりと固められていることを大きく評価したいと思っています。地域の皆様にとって、金沢大学に対するご要望が生じたときに、いつでもアクセスできる窓口が整えられたということです。このフォーラムをきっかけとして、金沢大学に対してさまざまなご要望がなされ、それを通じて新しい学問が育っていき、石川県に将来、学術、文化の中核県たる位置づけが与えられることを大いに期待しています。

日 程

日 時	1月24日（金）18：30～20：30
会 場	輪島駅ふらっと訪夢（輪島市河井町20-1-131）
主 催	金沢大学・石川県・金沢市連絡協議会
共 催	輪島市
大 学 側 出 席 者	中村(信)，水野，中村(浩)，太田，島田，山本（以上推進室）五味（講師） 田川，井川，土田（総務課）佐川（教育学部）掛野（入試課） 計12名

プログラム

テーマ：「地域が金沢大学に望むこと」

総合司会：太田 義興(企画広報室長)

プログラム（18：30～20：30）			
18：30 ～18：40	10分	挨拶	大学：中村 信一 副学長 (地域貢献推進室長) 輪島市：栗原 正一 助役
18：40 ～19：20	40分	話題提供（大学から）	「能登における持続的地域社会システムの条件」五味 武臣 教授
19：20 ～19：35	15分	話題提供（地域から）	「大学に望むこと－能動的な市民を育成するため」大下 泰宏 輪島市総務部企画課長
19：35 ～19：45	10分	金沢大学における地域貢献推進事業の紹介	水野 昭憲 (地域貢献コーディネーター)
19：45 ～20：30	45分	意見交換会	「加賀地域と金沢大学」 司会：水野 昭憲（金沢大学） 坂下 利久（輪島市）

出 席 者

70名

プログラム内容についての評価及び金沢大学への要望について（まとめ）

地元だけでもこういう会を持ちたいという声も聞かれた様に、相対的に好意的に受け止めていただけたようである。しかしながら、地元の方々が特に期待されていた討論会について、時間が短かったことへの不満も見られた。また話が多くすぎてまとまらず、よりテーマを絞った方が良いとの意見も聞かれた。

今後、積極的に地域へ出向き、能登地区での生涯学習への貢献や地域振興のための研究プロジェクトの発掘をして欲しいという住民の声に大学側がいかに答えていくかが課題である。